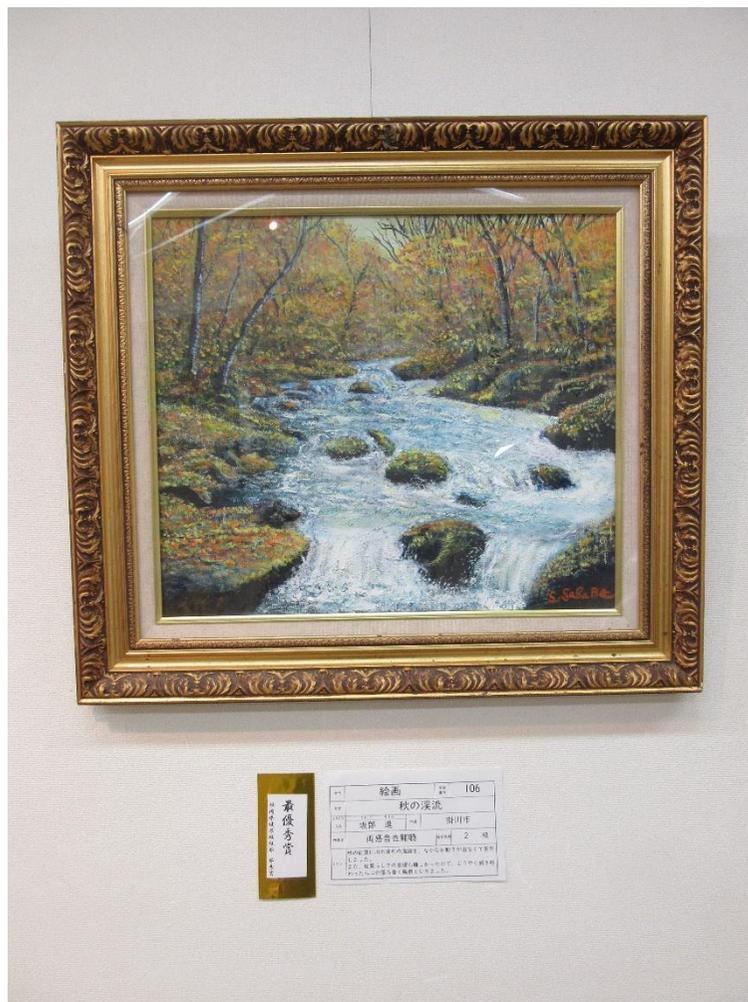


## 第47回 静岡県障害者文化作品展【絵画】部門

最優秀賞 坂部 進 さん

題 名 『秋の溪流』



秋の山の爽やかな景色を、筆のタッチを生かしながら丹念に描いた作品です。紅葉らしさの表現が難しかったとのことですが、冬に向かって更に枯れてゆく間際の、もっとも美しい紅葉が表現されています。全体的に色彩が暗くなりすぎず、明るい秋になっていながら画面が軽くないのは、手前の岩々をしっかりと暗く重々しく表現したからです。最も奥の木々の枝は、もう少し色をぼかしても良かったかもしれません。

川の表現は、奥から手前に迫ってくる流れの、その速さすら想像させるものになっています。そして、感音性難聴で聞こえにくいはずの作者が、心の耳で聞いたであろう、川のせせらぎの音すら聞こえてくるようで感動的です。今後の作品にも期待しています。

令和3年11月11日

【講評】 審査員（静岡県立沼津視覚特別支援学校長）馬場 俊一

## 第47回 静岡県障害者文化作品展【書道】部門

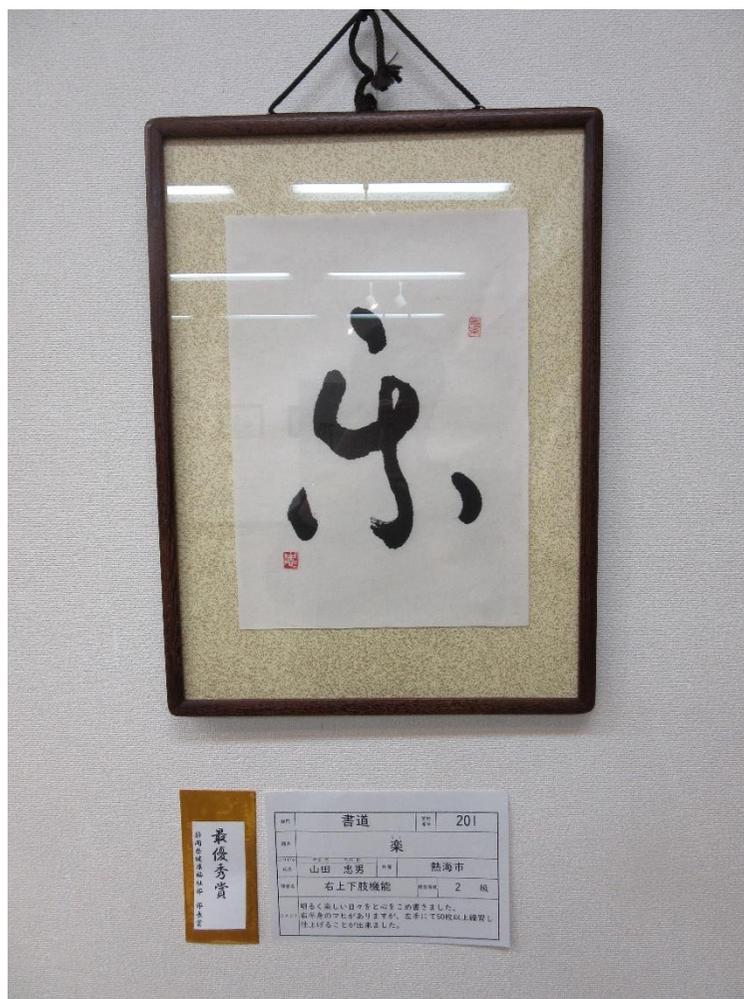
最優秀賞 山田 忠男 さん

題 名 『 楽 』

「明るく楽しい日々を」という作者の思いが、見る人誰にも感じられる作品です。右半身の麻痺によって左手で50枚以上練習して書いたとのことですが、50枚ほどでここまでまとめられた集中力と器用さに感心します。太い線と細い線の適切な表現やハネ、安定した構図やたっぷりした間など、見る人の気持ちをホッとさせる作品になりました。さらなる向上に期待しています。

令和3年11月11日

【講評】 審査員（静岡県立沼津視覚特別支援学校長）馬場 俊一



## 47回 静岡県障害者文化作品展【写真】部門

最優秀賞 溝口 光好 さん

題 名 『水田と夕焼け』



仕事の帰りに出会った素晴らしい一瞬を、逃すことなく捉えた力作です。夕焼けの景色は、カメラ任せでは明るさが思いどおりにならないことが多いのですが、この作品はややしぼり気味になっており、一面の夕焼けの美しさを見事に表現しています。画面の中央で空と水田が半々に区切られているため、現実とそれが写っている虚構の世界の対比も効果的です。

電車の窓に小さく見える乗客の影から一人一人の温かな生活が感じられ、その生活を大切に運ぼうとする、鉄道に関わる人々の思いすら伝わる見事な作品です。今後の活躍に期待しています。

令和3年11月11日

【講評】 審査員（静岡県立沼津視覚特別支援学校長）馬場 俊一

## 第47回 静岡県障害者文化作品展【工芸】部門

最優秀賞 八木 省 さん

題 名 『壁掛け（額）無量壽』



阿弥陀仏の意味である「無量壽」を、鋭い切り口で端正に表現した篆刻です。作品全体に対する文字の大きさが控えめであるだけに、空間に占める木目やその流れの線に大きな意味を感じます。じっと見つめていると奥行きや元の樹木の意志すら感じられるようで、無限の年月につながる奥深い作品になりました。

今後も、木材との対話を大切にしたい素晴らしい作品を期待しています。

令和3年11月11日

【講評】 審査員（静岡県立沼津視覚特別支援学校長）馬場 俊一

## 第47回 静岡県障害者文化作品展【手芸】部門

最優秀賞 三木 春子 さん

題 名 『美しい日々』



背景の滝の手前に、深い渓谷のように押し花を配置した作品です。画面下側の押し花をやや大きめの材料に、画面中間から上部の押し花をより細かな材料にしたことで、自然な遠近感と写実感が表現されています。また、右側下部の青い花と左側下部のピンクの花の対比が効果的で、画面に変化と面白さを出しています。作者の自然の材料に対する、愛情が感じられる作品です。

効果的に表現するための材料集めや、押し花作りは大変な作業だと思いますが、これからも自然へ畏敬の念をもって作品作りを続けてほしいと思います。

令和3年11月11日

【講評】 審査員（静岡県立沼津視覚特別支援学校長）馬場 俊一